



株式会社 野村総合研究所

ノーコードで多様な社内システムを柔軟に連携する基盤環境を構築

開発プロセスを標準化し、開発生産性の向上や拡大する連携ニーズに迅速に対応

野村総合研究所は、コンサルティングとITソリューションを一体化したサービスの提供により、あらゆる業種の企業のビジネスや社会の変革に貢献している。日本のほか、アジアや米国、欧州など拠点を拡大しており、積極的なM&A戦略による海外企業の買収なども推進しながら、日本企業の海外展開の支援などグローバルな事業ニーズに応えている。同社では、老朽化した既存の会計システムをSAP S/4HANAに刷新するタイミングで、かねてより負荷の高まりが課題となっていた各社内システムとの連携のあり方を見直し、汎用的なシステム連携基盤の構築を目指した。EAIツールに「ASTERIA Warp」を導入して、SAP S/4HANAをはじめ、調達購買管理システムであるCoupaや経費精算システム Concur、社内の各種業務システムを低コストかつスピーディに連携できる仕組みを実現。今後新たに導入を予定しているさまざまなサービスを縦横に連携していける基盤環境を整えた。

導入背景

- 連携対象システムを1対1で個別に接続する従来の方法では、連携の構築やメンテナンスに多大な工数を要していた
- SaaSを含む多様なサービスの導入が予想されるなか、拡大するシステム連携ニーズに、低コスト、短期で対応できる汎用的なシステム連携基盤の構築が求められていた
- システムの特徴や、開発者のスキルのバラつき等によって、連携処理の構築において生じる属人性が問題となっていた

選定ポイント

- 連携アダプターが豊富に用意されているほか、ETL(データの抽出・変換・ロード)の機能も多彩で、あらゆるシステム連携ニーズに汎用的に応えていくことができる
- バージョン管理ツールやWeb管理画面のみならずコマンドラインコンソール等の豊富なツール群があり、セキュリティ面を含む運用管理性の観点で大きなアドバンテージがあった
- 国内企業の導入事例も多く、導入後の手厚いサポートが期待できたことに加え、開発に必要なドキュメント類も非常に充実していた

効果

- 数十のシステムを連携する100以上の仕組みを約8カ月程度で構築。内製化により、システム連携にかかわる工数の大幅削減とスピード化を実現
- 開発プロセスの標準化や共通機能の部品化を進めることで、属人性を排除しながら、開発生産性を向上
- システム連携の仕組みを共通基盤化することで、運用保守フェーズでの変更要求への対応が、個々のシステムに影響を及ぼさず、基盤上の作業だけで完結できるようになった

システム概要

各連携はファイル連携方式にて構築



ユーザーのひと言



今回、SAP S/4HANAによる会計システムの刷新を契機として、かねてより工数の負荷拡大が課題となっていたシステム連携プロセスの構築を、「ASTERIA Warp」の導入によって共通基盤化。多彩な連携ニーズにも汎用的に応えていけるかたちを整えて、開発生産性の向上を実現しました。今後、当社ではSaaSなども活用して、既存業務システムのリニューアルを順次進めていくことになります。それに際してASTERIA Warpを活用した、低コストでスピーディーなシステム連携の実現が、当社のビジネスに多大なメリットをもたらしてくれるものと期待しています。

株式会社野村総合研究所 IT戦略部 安部 薫 様

User Profile



所在地：東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
会社概要：コンサルティング/ITソリューションの提供を核に、広範な顧客企業のビジネス変革を支援している
業種：情報通信
URL：https://www.nri.com/